

1. オリエンテーション ジュニア・レジデントプログラム

1. 研修責任者： 酒見英太（医学教育センター所長）

2. 期間： 4月第2週から2週間

3. 目標

【GIO】

洛和会音羽病院での初期臨床研修を効果的・効率的に行っていくために、研修システムと業務内容を理解し、一部の基本的手技を経験し、診療に必須の手順・態度を身につける。

【SBOs】

- ・病院の概要を説明できる。
- ・研修プログラムの流れを理解し、EPOC 入力ができる。
- ・社会人として適切な態度で振舞える。
- ・呼び出しに迅速に対応できる。
- ・コメディカルスタッフの業務を説明できる。
- ・感染予防の原則を理解し、手洗い、手袋着用を実践できる。
- ・電子カルテの基本操作ができる。
- ・診療録、サマリー、診断書、紹介状の記載方法を述べることができる。
- ・グラム染色ができる。
- ・静脈採血、静脈確保ができる。
- ・動脈採血ができ、血液ガス測定が行える。
- ・皮膚縫合、糸結びがシミュレータを用いて実践できる。
- ・点滴を準備することができ、点滴ポンプ、シリンジポンプを使うことができる。
- ・ER に存在する物品（救急カートなど）の所在を述べることができる。
- ・院内カンファレンス・レクチャーに積極的に参加する。
- ・EBM の概念と手法を説明できる。
- ・個人情報保護に配慮した適切な行動ができる（電子カルテログアウト、シュレッダーの利用など）。
- ・リスクマネージメントの仕組みを理解し、研修医として適切な報告・連絡・相談ができる。
- ・敷地内禁煙を実践する。

4. 方略LS

【タイムスケジュール】 例

日程	4/7(日)					4/8(月)					4/9(火)					4/10(水)					4/11(木)					4/12(金)					4/13(土)									
チーム	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
朝のレクチャー	公休					身体診察レクチャー					1年生の自己紹介①					EPOCレクチャー					1年生の自己紹介②					1年生の自己紹介③					縫合・結紮実習									
AM						院内各部署からの利用方法案内					病 病 病 病 病					消防局救急業務見学					医療安全・感染予防					ER 病 病 病 病														
Caseカンファ						病 病 病 病 病					DPC/診視棟 14:00~15:00 松村路尾Labura 16:00~17:00					診視棟の書き方 13:30~15:30 EBM 15:30~17:30					ER 病 病 病 病																			
PM						採血・血管確保(廊下側)					医局会					採血・血管確保(廊下側)					採血・血管確保(廊下側)					準 / G染色 G染色														
(時間外)	17:15~24:00																																							
日程	4/14(日)					4/15(月)					4/16(火)					4/17(水)					4/18(木)					4/19(金)					4/20(土)									
チーム	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
朝のレクチャー	公休					2年生から1年生へ①					身体診察レクチャー					2年生から1年生へ②					2年生から1年生へ③					看護業務実習					公休									
AM						病 病 ER 病 病					病 病 病 病 ER					病 病 病 ER 病					病 ER 病 病 病																			
Caseカンファ						病 病 ER 病 病					病 病 病 病 ER					病 病 病 ER 病					病 ER 病 病 病																			
PM						G染色 G染色 準					カノパ/Gorji G染色 カノパ 準					準					準																			
(時間外)	17:15~24:00																																							
深夜	24:00~翌9:00																																							

(4月の第2・3週を用いて上記の例のごときスケジュールで行う。年によってマイナーな変更はありうる。)

研修医は2名ずつの5グループ(A, B, C, D, E)にわかれて行動する。

1) 病=病棟業務

オリエンテーション後にローテートする診療科の上級医(できれば2年目研修医あるいは後期研修医)のもとで、電子カルテ操作、病棟業務の基本を学ぶ。手技・カンファレンス・講義以外の時間はできるだけ病棟上級医と行動を共にする。

2) ER=救急室業務

各グループごとにER業務を体験する。救急部医師およびER看護師が指導を担当する。救急患者が来院した場合は上級医について段階的に手伝いを行う。患者がいない時間には、ERに置いてある物品の位置と内容を知るだけでなく、エコー・心電図・除細動器・人工呼吸器の使い方、点滴の組み方、ポンプの使い方に慣れる。

3) 手技(採血・静脈確保・動脈穿刺・縫合/糸結び・グラム染色)

採血・静脈確保・動脈穿刺: ERにおいて担当指導医の指導のもと研修医同士で行う。

駆血帯をはじめとした物品は洛和会医学教育センター用意する。

縫合・糸結び: 医局カンファレンスルームにおいて、方法についての講義の後、シミュレータを使用し担当指導医の指導のもとで練習する。

グラム染色: ERのグラム染色場において、担当細菌検査技師による指導のもと実際の検体を用いてグラム染色・後片付けを習得する。

4) 基本 (病歴聴取・プレゼン・抗菌薬・血液製剤)

朝 (7:30-8:00) と昼 (12:30-13:30) に行われる研修医向けレクチャーシリーズに参加する。オリエンテーション期間中には病歴聴取とプレゼンテーションについての講義・シミュレーションのほか、抗生剤や血液製剤についての基礎知識を採り上げる。

5) 講義 (感染予防、DPC、EBM、EPOC)

感染予防：医局カンファレンスルームにて担当 Dr による講義と実習。

DPC：DPC についての概略と電子カルテへの入力方法につき、担当者より講義。

EBM：担当指導医のもとで EBM の 5 ステップを実践する (グループワーク)。

カルテの書き方・コンサルテーションの仕方・問題患者への対応：酒見 Dr による講義。

EPOC：研修責任者による EPOC についての講義の後、実際に入力を行う (オリエンテーション期間に学んだ項目につき入力する)。

6) 看護業務体験

各病棟に各 1~2 名ずつの研修医を割り当て、日勤・深夜の看護業務を体験させ、内容と感想についてレポートを提出する。

5. 評価 EV

下記に示すオリエンテーションチェックリストを各研修医が記入し、なるべくオリエンテーション期間中に全項目をカバーする。万が一残り残したことがあれば、4 月中にカバーし、研修担当医局秘書に提出する。

基本	病院内で会う人にきちんと挨拶できた	
	患者さんに接する前後できちんと挨拶できた (自己紹介も)	
	患者情報の入った不要な用紙はシュレッダーで処理した	
	PHS に出るときは自分の所属と名前をきちんとって礼節をもって対応できた	
	呼び出しには迅速に対応した	
	わからないことをそのままにせずに上級医やスタッフに相談できた	
感染予防	診察の前後できちんと手洗いができた (石鹸あるいはザルコラブ)	
	体液に触れる処置診察の際には手袋を必ずつけた	
	針はリキャップせずに処理できた (どうしても必要なときは片手でやれた)	
電子カルテ	入力モード選択をした (入院、外来、ER)	
	初診記録を記載した	
	経過記録を記載した	

	注射オーダーをした	
	内服オーダーをした	
	臨時薬のオーダーをした（薬局に確認し書類もきちんと作成できた）	
	検体検査（採血、検尿など）をオーダーした	
	生理検査をオーダーした（エコー、心電図など）	
	画像検査をオーダーした（X線、CT、MRI など）	
	消化管内視鏡のオーダーをした	
	頭部 MRA 救急セットのオーダーをした	
	DPC 入力、DVT 入力、病名入力ができる	
	オーダーや入力を間違ったときの削除、オーダー変更ができる	
身体診察	患者さんの状態に配慮した診察ができた	
病棟業務	病棟スタッフに挨拶し自己紹介できた	
	詰め所に誰もいないとき、たずねてきた人や電話を無視せず適切に対応した	
	入院診療計画書を書いた	
	入院時の DPC 入力、DVT 入力、病名入力ができる	
	時間内に指示ができた	
	時間外や急ぎのときには担当 Ns に口頭でも伝えられた	
	検体検査の追加オーダーがスムーズにできた（検査室への電話とオーダー）	
	緊急の検査の際に検査室や技師さんへ直接電話し交渉できた	
	血液ガスがひとりで行えた（準備、伝票、オーダー、測定<検査室および ICU>、カルテ記載）	
	ひとりで尿と痰のグラム染色を行い、（判断を上級医に仰ぎ）、後片付けまでできた	
	自分の出した検査を見落としなく確認できた（とくに培養などの外注検査、生理検査、画像）	
	受け持ち患者さんの検査にはできるかぎりついていって見学できた	
	退院指示ができた（指示簿への記載、退院処方、次回外来予約、退院療養計画書など）	
	退院時の D P C 入力、病名入力ができる	
紹介状・ 返事	スキャナ用と返信用の 2 通印刷し、押印した	
E R	ER においてある救急カートの中身（薬剤と道具）をチェックし道具の使い方を理解した	
	ER においてある除細動器と人工呼吸器と心電計の使い方を理解した	
	点滴を組むことができた	
	点滴ポンプ、シリンジポンプの使い方を理解した（取り扱い説明書でも確認）	
その他	時間がゆるす限り、院内で行われるカンファレンスや講義に参加した	